

「あまみエフエム ディ！ウェイヴ」放送原稿＜2月15日（金）放送分＞

テーマ「郷土の偉人」

あまみエフエム ディ！ウェイヴをお聞きの皆様、おはようございます。鹿児島県立奄美図書館です。今週は、毎月第3週に、奄美にゆかりのある作家や偉人を紹介するシリーズ「郷土の偉人」の11回目です。

今朝は、^{げんくんむしよばつ}厳訓無処罰の教育で、荒れていた旧制大島中学校を更生させた^{たつのていいち}「龍野定一」を紹介します。

龍野定一は、明治22年3月に徳之島町亀津の富豪、龍野家の長男として生まれました。しかし、定一が旧制中学に進む明治36、7年の頃には、学資にも事欠くほど貧しくなっていました。

「どんな小さな事業でも多少の設備資金や運営資金が必要であるが、教育を受け学問をするには毎月わずかの学資があれば足ります。それこそ最低額の月賦で何年かの後には、最も確実に最高最大の成功をおさめることのできる最良の方法は、教育を受け学問に励むことであるから、貧しい時は何よりも教育を受けるのがよい。」定一は、このような両親の考えを受け、今の甲南高校の前身である旧制二中に進みました。明治37年のことです。

その当時の鹿児島は、^{ほうけん}封建の弊^{へいしゅう}習が^{はなは}甚だしく差別感情が強く、大島の者は島人として特に蔑視^{べっし}し見下げられていました。そこで定一は、これと争うのではなく、父の教訓を思い出し、先ず自分の力を養い、次にできるだけ多くの友達と協力することを決心し、さらに勉学に励むようになりました。その甲斐あって、定一は二中の主席になり、特待生として月謝も免除されました。

定一のそのような頑張りがあり、二中には大島出身の優等生が多く集まるようになり、定一が5年生になった時には、正副級長や優等生の多くは大島出身者となり、寄宿舎の室長はすべて大島出身の者で占めるようになりました。

定一は、二中を卒業すると広島の高師に進み、大正2年に卒業すると、福岡県立^{とうちく}東筑中学校教諭となりました。

東筑中学校は、川沿い育ちの暴れん坊が多く、九州の三代ストライキ学校と評せられていた学校でした。定一が赴任して間もなく、定期試験のカンニングが発端となり、一緒に赴任した同僚に対するストライキ事件に発展し、多数の生徒が退学転校を命ぜられました。

一人去り二人減るのをさびしく考えていたある日、3人の子供がそろって校門を出て行く後ろ姿を見て気の毒にたえず「泥^{でいすいどかい}水土塊を洗う」という^{ぜんけ}禅家の語を思い出し、「努力次第では無処罰無試験の教育を実施することができる」と考え、^{ほっしん}発心決意したのでした。

定一は、訓育しつけの力量をつけるために、全国の名校長を求めて転任し、2年を1期とする内地留学と心得て、鹿児島一中、広島県中、京都の桃山高等女学校で各校の校長の薫陶を受けました。また、京都や東京の貧しい地域の教育も経験し、教育感化の力は警察権にも勝って強いものがあることを体験自得したのです。

定一が大島中学校に校長として赴任したのは、大正13年8月のことです。その年、大島中学校では、神社参拝拒否事件や化学教室からの薬品持ち出し事件、学校の至る所に糞尿をまき散らす糞尿事件と事件が相次ぎ、5月には空き家になっていた舎監長住宅への放火まで起こり、混乱の極みに達し、警察までも交えて対立が激化し、県当局と学校当局、保護者、地方政客が激怒論争し、その結果次々に多数の生徒が退学放校の処罰を受け、廃校の問題まで論議されるにいたっていました。

県当局としては、一郡一校主義の立場から廃校にすることはできず、この大騒ぎを治めて校風を立て直し刷新するために定一の校長就任を要請したのでした。

定一は、就任直後の職員会議で新方針を説明し、その理解と協力を要望し、9月1日の新任式で全校生徒に対して、次の10項目の話をしました。

- | | |
|-----------------|-----------------|
| 1 決して処罰はしない | 2 善悪の弁、あやまる、ゆるす |
| 3 仲良く、正直に | 4 賞罰など気にするな |
| 5 しくじってもよい | 6 過ったら改めよ |
| 7 生徒自治会、自治自由と責任 | 8 一人残らず運動競技を |
| 9 勤労作業の訓練 | 10 図書室と無試験の実施 |

こうして定一が十数年間温め続けた「厳訓無処罰の教育」実践が始まりました。その後も、級友を刺して怪我を負わせる事件や隣の家の山羊を殺して食う事件、教師排斥運動などが起こりますが、決して生徒を処罰することなく、その都度全校集会を開き、真の安陵健児たることをたたき込んでいったのです。

定一の在職6年間で、生徒が学習に努め、運動競技にも励むようになり、どんなに厳しい鍛錬にも耐えて勤労作業にも従事したので、師弟和親、学友共励の平和な安陵学園ができあがったのでした。

その龍野定一校長の銅像が今でも正門近くに立って、大高を見守っています。

運動部活動での体罰やオリンピック強化練習における体罰など、社会全体でこの問題を考える気運が高まっている今日、私たちの郷土の先輩が実践した『厳訓無処罰の教育』を見直してみてもいいのではないでしょうか。

以上、鹿児島県立奄美図書館でした。